



編集委員  
湘南高等学校 湘友会  
定時制部会事務局

印刷所  
株式会社さんこうどう  
0466-27-2511

湘友会定時制部会会長

杉浦 信次(6回生)



「鏡に映る顔」

人間回帰を促すある書に、姦淫の場で捕らえた女を石で打ち殺せと叫ぶ律法学者たちに向かって、その方は「あなた方のなかで罪のない者が、この女に石を投げつけるがよい」

これを聞いた律法学者たちは石を捨て一人残らずその場を去った、と記している。

刑事裁判に参加する新制度の導入に続き、一般市民の裁判員制度が五月から始まるに際し、殺人罪などについて有罪が無罪か、その量刑判断が問われる時に重ね合せて、読者と共に賛否両論に及ぶ話題を広げる旨から一石を投じ試みた一節である。

人の命の尊さは、その命がたった一つのかけがえのないものであり、加害者も同じである。現実の裁判では、被告の事情や反省、謝罪の程度などが酌

量要件として量刑判断の材料になる。死刑は命を奪われた遺族にとつての「復讐」とみなされているが、結果として殆ど何も解決してくれないばかりか、かえって人の心に罪悪感を生む構造となっていることから、人の死を望む自分を鏡に映し出し、死刑そのものを論ずることの現実的な難しさを感じている。ただ「二度とこのような事があつてはならないことを祈ります」と、結審後に被害者が言うこの言葉に癒しを覚えると同時に複雑な思いが交叉する。感情は排すべき法理論と同時に、裁判制度が始まる現実から不審ながら思考してみたいが読者にはどう映るだろうか?...

の重さがあり、価値がある。己れを律する学習は「道徳」をもって養うほかはない。教育の本旨は人の「徳」を明らかにすることにありと考へれば、道徳の学習の場は必ずしも学校だけではない。日々の家庭、地域の教育力の中でこそ「徳育」を培うものである。言葉で教えるのではなく、わが身をもつて人として在るべき道を実践し、教化していくのが「徳育」である。形を変えた愛の鞭も時に応じて首肯できるが、学校での本来的な学習は何か、其々全ての教科の意義を深め、自己啓発に関わる糸口を見いだす諸活動を尊重するなど相対的な判断力を身につける総合的な学習による訓練の場と心得るが、如何なるものか。...

絶たない迷える世相ではあるが、その究極の根源を明らかにすることから始めれば、「人間って何?」そして「私って誰?」に尽きる。限らない欲望と押さえがたい自制心は永久に尽きない自らの難題にすぎず、しかし欲望無くして今日の文明文化は有り得ない。自戒も含めた学習の場こそ、行動とその教訓の積み重ねで真価を測る場である。人が人として生まれながらに持っている「徳」をいかに引き出し、伸ばすことから己れを尊び、人を尊ぶに及ぶ「徳育」と思案している。在校生の皆さんは、湘南高校の先生・共学の友という得がたい桃火に燈され導かれ、養分を含み時かれた種の如く、陽を浴び、雨風に耐え、どのような自己を育成されるだろうか?。人間らしさ、輝きを増す心意気を持って、自己のかけがえのない課題に取り組んで

欲しい。結果は後から付いてくるものである。刑法上の概論から、「死刑」を巡って客観説・主観説を唱え、友の生寮で夜を徹して論じ合ったことが今日の課題になるとは、今にして想えば懐かしい青春の一頁であり、ここに綴る機を通して裁判員制度の成り行きを読者と共に見守りたい。

総会のご案内

湘友会定時制部会

日時 6月20日(土) 9時

場所 藤沢産業振興センター

(6階コミュニケーションルーム2)

藤沢郵便局本局隣

各回生連絡委員の方は、必ずご出席をお願いします。

終了後、湘友会総会に出席して下さい

湘友会費「十年会費」

納入のお願い

(定時制年会費とは別です)

定時制会員、9回・19回・29回・39回・49回の皆様今年「十年会費」納入の義務があります。同封の振込用紙にて入金をお願いします。

(詳しくは湘友会報をご覧ください)

郵便局 加人者 湘友会

座番号 00250(4)14177

金額 5,000円

通信欄に「十年会費」卒業回生(定)を明記して下さい

湘友会定時制部会の

年会費納入のお願い

年会費各回生につき一万円納入をお願いします

個人寄付も受付けております

湘友会定時制部会事務局長

## 特別寄稿(一)

よろしくお願ひいたします

教頭 古谷 康司先生



この度、湘南高校定時制の教頭に就任いたしました、古谷康司(ふるたに やすし)と申します。私は、教育委員会高校教育課に四年間在籍し、行政という立場から学校教育のサポートをさせて頂いてまいりました。ここでの経験を活かして、湘南高校定時制が、生徒にとって生き生きと学習できる学校となるよう、先生方と力を合わせていきたいと思っております。

さて、湘南高校定時制は、平成二十一年度から単位制の高校として新たにスタートすることになりました。生徒の学習目的や興味・関心に応じた多様な選択科目を設置し、生徒の主体的な選択により、定時制に学ぶ生徒の多様な学習ニーズに対応する特色ある教育活動の展開が可能です。また、豊かな社会生活を営むための力の育成を目指し、人文・情報・科学など、体験的な学習も取り入れた幅広い学習内容の提供も可能となりました。

これらのことを実現するため、従来の三学期制から、前期・後期の二学期と変更するとともに、四十五分授業で六時間の時間割としました。一時間目

と二時間目は、三年で卒業を目指す生徒のための選択科目を用意するとともに、基礎・基本を充実させる科目も用意しました。一人でも多くの生徒がこの制度を活用することで、自分に合った学習計画を立て、自分の進路希望を実現できることを期待しています。

さて、川井校長は生徒に、「少しでもいから高い目標を設定してがんばりましょう。挑戦して、達成感を感じてください。」と話すとともに、「湘南高校定時制は、みんなが一生懸命頑張っている学校です。どうぞ見に来てください。」といろいろな機会でお話していることを紹介しました。私も着任したばかりですが、挨拶が良くできる子供たちが多いと感じています。その子供たちを支える先生方の熱心さを感じています。

入学式での保護者からのアンケートには、「基本からしっかり教えてほしい」「社会人としての準備」「三年で卒業」など、様々な期待が寄せられています。この期待に応えられるよう、学校長を中心に職員が一丸となって、生徒の生活面・学習面でのサポートをしていく所存です。

## 特別寄稿(二)

## 食と健康

五百川 俊男(定時制部会副会長)

「食」は人を良くすると書くが、私どもの命の根源である食について考えると不健全な話題が多い昨今である。

例えば、食の安全性や食料自給率の低下、食の廃棄量の多さと飢餓問題、若者達の食生活の乱れに伴う心身の健康の悪化、食のマナーの悪さや氾濫す

る食情報による健康被害や詐欺商法等の問題など限りなく切実である。最近の若者達の朝食抜きや不規則で偏食、スナック菓子やペットボトルドリンクの多飲、ダイエツト志向などは嘆かわしい。国が税金を使って「早寝早起き朝ご飯キャンペーン」等の啓発をしながらはならない現代を憂慮する。豊食から飽食・崩食へと食文化の変遷に伴い、今、食を通して健康教育(食育)の大切さが叫ばれている。

五年前に食育基本法が成立し、我が国の伝統ある優れた食文化や需給状況理解、農山漁村の活性化と食糧自給率の向上を図るように国全体で動いている。食育の基本は、幼少期から食生活能力を身に付けさせることであり生きる力を育てる教育である。しかし今、家族の在り方の変化に伴い「食」の関心度の多寡に両極端な人たちのいる現実に私は危惧を感じている。例えば体験活動を通じた食育を推進しようと講座を企画するが、受験に役立たないと否定的に捉える親子に出会ったこともある。こんな親や大人にこそ食育の必要性を痛感する。

今や世界一の長寿国になり健康増進法も制定された。私達も、マスメディアや食品産業界から日々大量に発信される健康や栄養情報を過大評価したり過信したりするフードファディズムに簡単に巻き込まれない主体的な健康管理の知恵が大切である。更なる健康を求めて、微に入り細にわたる良いと言われる食生活をしても絶対の健康が保証される訳ではない。私自身は昔からの腹八分目、一汁一菜の箴言通り、自分の生活は程々のバランスのとれた食事で健康管理に努めていきたいと思っている。

## 「進路セミナー」について

今回で三度目となる在校生に対してのキャリア教育の一環として「進路セミナー」が平成二十年九月五日湘南高校に於いて実施されました。今年度の受講対象は三年生、四年生でした。

内容についてまとめますと二部構成で行い一部の三十分で進路別講演会と題し、就職希望者に就職に関する一般的な話(杉浦会長)、進学希望者に進学について実践に基づいた一般的な話(渡辺二六回生)、進路未定者に進学、就職未定者に進路の岐路に関する一般的な助言(谷口四九回生)を各講師が行いました。

二部は約六十分の時間で進路別説明会と題し、面接指導を個別に行い(杉浦会長)、小論文の指導(五百川副会長)、卒業生による進学にむけたシンポジウムを開催し最近卒業した会員の体験談等の発表、意見交換等(渡辺講師・谷口講師が参加)、進路関係のビデオの上映(学校職員)、セミナーの参加者は一部一二二名、二部百三名でした。

今回のセミナーも学校側の全面的な協力のもとに行われ成功裏に終わったことに感謝すると共に、少しずつ参加者も増え、生徒の受け止めかたも定着しさらに有意義なセミナーとして今後更なる発展を求めたいと思います。



谷口講師



## 「法律セミナー」について

平成二十年十二月一日、(十九時三十分～二十時三十分)湘南高校多目的ホールに於いて「法律セミナー」が行われました。

今回のテーマは、人間として自立をして生きて行く為に何が必要か…、又、働く意思の高揚に焦点をおき、「年金と自立」を演題に求めました。

司会の成田先生の挨拶、川井学校長の挨拶、箕輪教頭先生の講師紹介が行われました。

講師には社会保険労務士の佐相氏(定十四回生)をお迎えし講演が行われ、内容は「公的年金の仕組み 国民年金・厚生年金・共済年金の保険料納付と受給要件について 年金未加入の場合、障害者年金等との関係について等々様々な観点から講話が行われました。

講話の最後の質疑で女子生徒からの質問で、「私達が六五才になった時、年金で、本当に貰えるのですか?」と言う質問に佐相講師は、「私達も若い人たちが支払う保険金で、年金支給を受けている…、あなた方が高齢になつた時と同じように若い人達が支払う保険金から年金は受けられます。」と解答されました。

年金の問題について、今の大人たちの考えと同様に切実な真剣さが窺われ、多少の問題提起にはなつたのではないかと思います。

(事務局記)



佐相 講師

## 定時制だより

今春、入学した新入生は百四四名で、五クラスで展開します。

一方、この三月に卒業した生徒六七名のうち、四年生が四五名、三修制が二二名となり、三修制という制度を積極的に活用する生徒が定着しました。

### 第五八回卒業生の進路状況

四年制大学 五名  
短期大学 四名  
専門学校 八名  
就職 十二名  
その他 三十八名

### 教員の移動

「略」

### 今年度の主な行事(予定)

四月七日 入学式  
六月二十・二十一日 文化祭  
十月十日 体育祭  
十月下旬 修学旅行  
三月上旬 卒業式

## 定時制部会平成二十年度年間活動報告

(平成二十年四月一日)

平成二十二年三月三十一日

\* 四月八日(火) 入学式(五百川副会長出席)

\* 五月一日(木) 湘友会定時制部会報の発行(二八号)

\* 六月七日(土) 連絡委員懇話会 藤沢産業振興センターにて。

\* 六月二十一日(土) 定時制部会総会 終了後湘友会総会に出席

\* 七月上旬 定・通全国大会出場者に補助金支給

\* 九月五日(金)「進路セミナー」開催

\* 十月四日(土) 体育祭補助金支給(会長、体育祭に出席)

\* 十月十一日(土) 第三回 青春かながわ校歌祭参加(杉浦会長参加)

\* 十二月一日(月)「法律セミナー」開催

\* 一月二五日(日) 通信制閉課程に伴う 記念碑の除幕式に出席(杉浦会長出席)

\* 三月三日(火) 湘友会入会説明会(事務局長出席)

\* 三月四日(水) 第五八回卒業証書授与式出席(杉浦会長出席)

\* その他、四回の役員会を開催

収支報告表は略

同窓会だより、お待ちしております。

事務局連絡先

(略)

# 同窓会だより

## 二湘会(第二回生)の集い

新緑が目にしみる昨平成二十年五月一七日、藤沢駅南口の茶寮「若狭」で恒例となった「二湘会」を開催しました。



二湘会に幸あれ!

出席者は昨年同様十一名で、ここ一二年は会員の体調のこともあり、やや低調です。しかしそこはそれ人生経験豊かな職人揃い、また、後期高齢者入りも多い割に、熱気の高校時代にタイムスリップしました。何といつても戦後間もない混乱期の昭和二十四年四月、当時木造校舎二階一番左手の教室に裸電球の灯がともる頃、我々は三々五々集まっていました。

先生は全員、全日制の先生がかけもちで教壇に立ち、今から思うと昼間、夜間両方の教鞭をとられ、先生方はさぞ大変だったことと思います。先生方の名講義はそれぞれに、ユニークに満ち今でもすぐ頭に浮かび、言葉が出てくる点、皆一緒で素晴らしいベテランの先生ばかりでした。

同窓会では、いつも一頻り先生方の話題に花が咲き、時間のたつのを忘れてしまふほどです。

あつというまに予定の時間が迫り、全員で「秀麗の富士を・・・」の校歌を元氣よく合唱して終了、これまた昨年同様全員揃って、二次会のカラオケに流れて、

十八番の喉を披露していました。次回幹事は秋本(留任)、宮下(新任)に決まり、来年の再会を楽しみに散会しました。(秋本記)

## 同窓会楽しく盛大に

### 六回生(32湘友会)

新緑が映える平成二十年四月二二日に藤沢市民会館松の間で、32湘友会(六回生)の同窓会が開催されました。三年半ぶりの会は、与野先生のご参加も頂き、三三名が集う楽しく賑やかなものとなりました。

一堂に会せた喜びをかみ締めあう温かな雰囲気の中、会は始まりました。欠席者の伝言に続き、参加者全員が近況や思いを語りました。

古希もすでに過ぎた者達故に、様々な人生模様が披露されました。趣味・ボランティア・地域活動に勤しむ者、大学名誉教授・フランス画壇で受賞を重ねた画家・企業経営者・農業者、第二第三の職場で活躍する者、自分や家族配偶者の体調管理に努めている者等それぞれが大切な時間を過ごしています。その中から、友たちの人生の奥深さが感じられ、嬉しく思った次第です。美味しい料理やお酒を堪能しながらの懇談の後は第二部の始まりです

与野先生の迫真の創作演舞、宮尾君のマジック、尽きることのない歌の数々。宴は最高潮に達しますが、全員での校歌を最後に余韻を残しお開きとなり、夕闇迫る二次会場へと向かったのであります。(長谷川記)



32 湘友会

## 同窓会の報告 一三回生

平成二十年五月吉日、新緑の箱根路を経て深谷沿いの湯元温泉の宿に四年ぶりに二十七名の懐かしい顔が揃い、三時から二時間のウエルカムドリンクを傾けながら近況を語り、旧交を温めました。

懇親会では昨年ご逝去されました恩師、天野先生の奥様のご挨拶をいただき、山田先生の母校の近況を含めたお話し、とりわけ平塚金目地区の水門管理の総代として活躍の与野先生のさらに磨かれた肉体?によるフラメンコダンスのご披露は圧巻でした。

翌日十一名はガラスの館に赴き、青葉の茂るカフエテラスでカンツォーネを聴き楽しい時を過ごし再会を約し解散をいたしました。

次回の節目の年には多くの同窓生のご参加とすべく場所、時間(二十年六月八日午後、場所 藤沢市内を予定)を仮に決めましたので是非お誘い合わせのうえご参加をお願い致します。(幹事 大井・山下・倉科)



13回生

## 夢の修学旅行が実現

### 二十六回生(湘巳会)

さる平成二十年二月十日、二十六回生の修学旅行を兼ねた同窓会が(箱根で一泊二日)開催されました。

高校在籍当時から企画はあったものの皆の仕事等の調整が合わず、実現には至りませんでした。がようやく子育て

も一段落し、高校卒業以来三十二年ぶりに初めて修学旅行を実現することが出来ました。

遠くは奄美大島・長崎佐世保より駆けつけた仲間も、時間を忘れるほどに語り合い、楽しい思い出の一日となりました。当時の担任、与野先生、三村先生も駆けつけてくださり有難うございました。(渡辺記)



湘巳会

## 編集後記

日頃のご支援感謝しております。今回29号には同窓会便り四件等、盛りだくさんの記事を掲載でき誠に有難うございました。今後とも記事のご協力をお願い致します。

一方、会計の方に目を転じますと御寄付をいただいた富田様(定四回生)、馬場様(定一三回生)、福元様(定二回生)、二回生の方々、与野先生、金子様(九回生)、佐相様(定一四回生)には会長を始め役員一同、紙面をおかりし厚くお礼申し上げます。今後とも御支援の程宜しくお願い致します。

## 追記

去る平成二十一年四月二二日に第六回生の同窓会を開き、その際湘友会定時制部会活動諸費用として二十七名の諸氏の方々、合わせて他の諸氏からも諸活動の主旨にご理解、ご協力を賜り、多大なるご賛同頂きましたことを厚くお礼申し上げます。有効かつ適正に使わせて頂きます。

定時制部会長 杉浦信次